

# 修道



## information

- 挨拶  
会報誌の発行にあたって 深山英樹(高12回)..... 1
- 支部活動報告  
関東支部 野崎敬二(高19回)..... 1  
近畿支部 世良朋孝(高35回)..... 2  
東部修道会 山崎義明(41回)..... 3  
九修会 石本俊亮(高27回)..... 3  
江能修友会 胡子雅信(高41回)..... 3  
修道医会 大段秀樹(高33回)..... 4  
広島修道歯科医会 毛利雅哉(高31回)..... 4
- 歴史  
原爆直後の校舎写真みつかる ..... 5  
修道で出会って70年 ― 中二の逝友と69年 ―  
永谷道孝(高2回)..... 5  
故前田正行被爆体験記 前田笑子(故前田正行姉)..... 6  
藍染絵「NO MORE HIROSHIMAS」の寄贈 ..... 6  
一期一会のいつか「回顧録」(3) 森山純爾(旧中29回)..... 7
- 人物往来  
東北郡山から修道を想う 赤川安正(高20回)..... 9
- 同期会報告  
修道三九一会 奥本博(旧中39回).....10  
四期会報告 河野富士雄(高4回).....10  
関東地区四期会報告 皆川孝一(高4回).....11  
修六会 傘寿の会 諏訪 惇(高6回).....11  
卒業60周年記念「修七会」開催 山下 泉(高7回).....11  
高校38回同期会報告 出原寛之(高38回).....12  
高校39回卒同期会(サンキュー会)特別授業の報告  
北村直幸(高39回).....13  
第28回 修寿会総会・懇親会報告 元事務長 田中佳樹.....14
- 同窓会ニュース  
佃和夫関東支部同窓会長、母校にて講演 .....14  
下村幸男氏(高2回)サッカー殿堂入り決定 .....14  
同窓会名簿 第36号発行 大方幸一郎(高38回).....15  
新役員選任 .....15
- 事務局だより  
広島土砂災害義援金のお礼 .....15  
写真・資料提供のお願い .....15  
住所変更手続きのお願い .....15





# 挨拶

## 会報誌の発行にあたって



修道学園(中・高)同窓会  
会長 深山 英樹(高12回)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
このたびの同窓会会報誌第81号の発行にあたりましては、各方面より多大のご協力を賜り無事発行することができました。この場を借りて厚くお礼申しあげます。この会報誌が同窓会と同窓生の、また同窓生同志の情報交換・情報発信の一助となれば幸いです。

さて、ご存じのように平成27年4月1日をもちまして、修道学園と鈴峯学園は、それぞれの特性を活かし総合的な学校法人へと発展するため合併いたしました。

これにともない鈴峯同窓会も修道学園同窓会連合会(以下「連合会」)へ加盟し、連合会は規模、内容とも充実した組織となりました。修道学園(中・高)同窓会も連合会組織の一員として、同窓会発展のためさらなる努力を続けてまいりますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。会報誌発行のご挨拶とさせていただきます。

### 関東支部2014年 10月～2015年9月 活動報告

関東支部幹事長 野崎 敬二(高19回)

関東支部の会計年度は4月～3月です。総会を7月第2月曜日開催と定めているため役員の任期は10月～9月を1年として活動しているので、その1年間を報告します。

2014年10月：修道サロン(れもん屋・ただし台風のため中止)・秋季支部ゴルフ大会(八王子CC)、11月：学年幹事会(後楽園飯店)、12月：修道サロン・近

畿支部総会参加、2015年1月：学年幹事会、2月：修道サロン・総会実行委員会事務局合同会議(稲田公認会計事務所)・学年幹事会、3月：合同会議・学年幹事会、4月：春季支部ゴルフ大会(葉山国際CC)・事務局会議・修道サロン、5月：学年幹事会、6月：修道サロン・合同会議・学年幹事会、7月：総会(東京ドームホテル)・事務局会議、8月：東大見学ツアー(東京ドームホテル)9月：広島本部総会参加。予定も含め、以上です。

本部への要望として、9月総会前の会議において学校側より理事長、校長をお招きして現況報告と質疑応答の設定

を、お願いしたい。支部に戻って、学校の現況や展望を報告出来ないからです。年に一度の顔合わせなので、もっと本部支部同士の懇親や意見交換の場となるよう、お願いいたします。

本部への最大の敬意は、募金の時に相当の実績を挙げられることです。関東支部において、支部としての対応はまだしも各個人の対応に、まだ徹底しきれない反省点があります。

昨年、関東における他の同窓会で傾聴に値する例を報告しましたが、掲載されませんでした。浦和高校同窓会の奨学金と留学制度の充実のため財源確保と一般財団法人化、開成高校同窓会の、

在校生への金融OBからの知識や経験の伝授といった取り組みは、修道でも議論してみたいかがでしょうか。

関東支部の今年の総会は、会費事前振込制を初めて導入したこともあり参加人数が減少しました。もう一度500名参加(会員数2,500名)を目指し、若手の組織拡充と若手のためのイベント(ビジネス基準の交流や勉強会)に取り組み覚悟です。

同窓会において、会員相互の懇親は活発であっても、支部における修道学園の発展に寄与し事業を応援するという目的を、会員に共有されるよう努力したいと思っています。



# 支部活動報告

## 2014年度近畿支部 総会・懇親会開催報告

近畿支部事務局 世良 朋孝(高35回)

2014年12月7日(日曜日)、ホテル大阪ベイタワー(大正区弁天町)において、近畿支部2014年度総会および懇親会が開催されました。

今回も広島から田原校長、深山同窓会長、また関東支部からは、野崎幹事長をお迎えし、ここ最近では最高となる130名近くの同窓生が集いました。

司会は、今年も副代表幹事の有馬さん(高校24回)。総会に先立って午前11時から医療法人創志会しくま脳神経外科クリニック院長であり、大阪医科大学臨床教育教授でもあられます、志熊道夫さん(高校21回)による講演「アンチエイジングは脳の健康から」でスタートしました。突然襲ってくる脳卒中などの脳血管疾患や、脳血管疾患からくる認知症などの症状を防ぐためには、異常を感じたら早期に診察を受けること、また日常生活においては、食生活・体重管理・定期的な運動や塩分の摂取を控えるなど平素の心がけが大切であるとのアドバイスをいただきました。参加者の中には耳の痛い思いをされた方もいらつしやるのでは?と感じました。

その後、会場を移動し、総会に移りました。始めに、長年にわたり近畿支部の運営にご尽力いただきました、故・中村進さん(高校19回)をはじめ、この二年間にお亡くなりになった同窓の皆様方へ哀悼の意を表し黙祷をささげました。近畿支部会長の齋本さん(高校17回)の開

会挨拶の後、前年度の事業報告・会計報告が、代表幹事・会計担当の林さん(高校19回)より、また会計監査報告が監査担当の伊藤さん(高校13回)からそれぞれ付議され、各議案および報告事項とも全会一致にて承認され、総会は滞りなく終了しました。

この後、引き続き、田原校長・深山同窓会長・野崎幹事長の順に、ご来賓各位のご挨拶により懇親会が開始されました。中でも田原校長からは、班活動では水球班が2年連続インターハイベスト8になったこと、ジャグリング同好会の生徒

が世界大会で優勝したこと、朝日新聞出版社「全国名門30校」に麻布・開成など名だたる名門校と共に、我が修道学園が選ばれたこと、広島県の湯崎知事が修道で授業をされ、「こんなに活発に質問や発言をする生徒は初めてだ」と驚かされたエピソードなど、ユーモアを交えてご報告いただきました。また、深山同窓会長からは「修道学問所之蔵」移築・復原への協力感謝を述べられました。そして、近畿支部顧問の西原さん(高校16回)の乾杯の音頭ののち、しばしの間、欲談、昔話に花が咲きました。今年は欲談中に卒業アルバムや現在の校舎の様子をDVDにまとめたものを上映し、往時の写真の数々にあちらこちらで「懐かし」との声があがりました。

次いで、懇親会の華ともいふべき豪華ゲストの相次ぐ登場により会はクライマックスを迎えます。まずは昨年に続き、京都在住で全日本学生音楽コンクールに優勝されるなど、最も注目される若手ヴァイオリニストの一人小島燎さん(高校

63回)の素晴らしいヴァイオリン演奏で幕開け。その才能あふれる繊細かつ華麗な演奏に、参加者一同酔いしれました。今年から海外留学を予定され、更にその腕を磨くとのこと。新たなステージへの門出の演奏となりました。次に毎回華麗なマジックで大好評を博している、マジシャン・ピリーこと副島雅之さん(高校29回)の登場。ファンタスティックなマジックが次々と飛び出し、今回も、ピリーの神の手から相次いで繰り出されるスゴ技の数々に、参加者は度肝を抜かれ、魅了されたひとときでした。

また、毎年恒例となりました若手参加者の披露・挨拶。今回は、高校50回の越智さん、高校53回の古谷さんをはじめ5名の方が登壇し、一言ずつ近況を報告しました。これから若い年次の卒業生が数多く参加してもらえるよう、心から期待しています。

最後に、毎度おなじみになりました近藤達夫さん(高校29回)のソロ。相変わらぬ声量に二回倒され、その勢いそのまま、全員が肩を組みながらの校歌斉唱、太田英之さん(高

校31回)のエールで盛り上がりました。卒業した年代は違えども、修道近畿支部の同窓会旗のもと、「安芸の小富士に」と歌い始めると、自然とあの頃に感じる覚を味わえるのは、同窓会ならではの、いつも感じます。最後に、結城副会長(高校17回)による閉会挨拶で幕を閉じ、次回2015年12月6日(日)の再会を誓い合いました。

ご協力いただきました関係各位、そして参加者の皆様には、改めて御礼を申し上げます。





# 支部活動報告

## 東部修道会 活動報告

山崎 義明(高41回)

東部修道会は、広島県東部地区および岡山県の出身者および在住者を会員として、修道学園(中・高)同窓会の支部として発足しました。品川晃(会長(高校2回))をはじめ、多くの会員が、会員相互の親睦と母校の発展のために、様々な活動をしています。

東部修道会は、毎年1回、総会と懇親会を開催しており、平成26年度も、10月17日(金)に福山ニューキャッスルホテルにおいて開催されました。

総会では、平成25年度の収支報告および監査報告がなされ、いずれも全会一致で承認されました。また、修道学園からは清原真琴先生にご列席いただくとともに、記念講演では、元校長でいらつしやうた島眞實先生より、「十竹先生について」との演題でご講演いただきました。

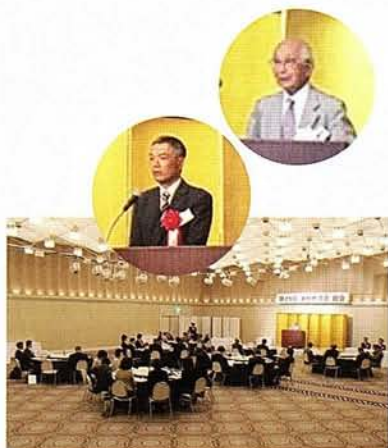
記念講演では、修道学園史研究会の会長として、「十竹先生物語」を発刊するに至るまでの険しい道のりをお話しいただきました。

その後の懇親会では、出席者の皆さんは、世代の垣根を越えて、会員相互の親睦を図っておられました。

例年、総会と懇親会には、広島県東部地区および岡山県から修道学園に通学している生徒のご父兄も参加されています。父兄の皆さんは、会員の絆の深さを目の当たりにされ、ご子息を修道学園に通

わせてよかったです、と実感されていました。また、東部修道会では、年に3〜4回、幹事会を開催し、今後の活動計画の策定や記念講演をしていただく方の人選等を行っています。さらに、毎月第3月曜日には、福山市内のバー(プリミエ)に三々五々集まり、学園生活や寮生活での思い出話を花を咲かせています。

私も、福山市内に転居してもうすぐ7年になります。先日、東部修道会の幹事を拝命することになりました。微力ではございますが、1人でも多くの会員と親睦を図るとともに母校の発展のお手伝いができればと思っております。今後とも、よろしくお願いいたします。



## 平成26年度第22回九修会 総会報告

九修会事務局 石本 俊亮(高27回)



平成26年度の九修会総会は、入学試験の時期を避けて、2月7日に開催することにしたところ、田原校長、深山同窓会長をお迎えすることになり、例年より多くの参加者がありました。会の冒頭、井上会長(S43)より、カープ女子、マッサンの話題など、注目されている広島

の話を取り上げました。続いて、マラソン大会から駆けつけていただいた田原校長より、学園の近況と合わせて、「名門校とは何か」という書籍の紹介があり、脈々と受け継がれている修道魂と「カッコいい男たれ」という新たなテーマの話をいただき、常に時代の先駆けとなる修道学園の素晴らしさを、改めて感じる事ができました。

また、深山同窓会長より、様々な分野で活躍し、社会貢献を果たしている修道卒業生の話をいただくとともに、九修会総会開催に対する祝辞をいただきました。

続いて、昨年度同窓大会の報告を黒田副会長よりいただき、乾杯は、席決めで配布する一番くじを引かれた、中里さん(S38)にお願いし、にぎやかに懇親会がはじまりました。



平成27年6月28日(日) 於 能美海上ロッジ  
後列左側より、石村(S35)、黒田副会長(S38)、田島(S37)、盛脇(S45)、秋山(S36)、近藤(S49)、芹川(S47)、花岡(S38)、濱岡(S41)、伊古野(S61)、石本(S50)  
中段左側より、古川(H04)、浅海(S62)、吉川(S29)  
前列左側より、青原(S34)、児玉(S28)、田原校長、深山同窓会長、井上会長(S41)、中里(S38)

## 第21回 江能修友会総会

胡子 雅信(高41回)

が新たに参加され、ご来賓2名を加え、総勢20名となりました。総会の席では、例年通り近況報告をみなさんからいただきましたが、皆さん話題豊富のため、予定の2時間半があつという間に過ぎ去りました。最後は、校歌で締めくくりに来年度の再会を誓いました。

また、新しい名簿をもとに、若い会員との交流のあり方について、S38卒の中里さんから提案があり、事務局の宿題となりました。次回、良い報告ができればと思っています。

平成27年7月7日に発足しました江田島市(江田島・能美島)出身および関わりのある者を会員とする江能修友会も21年目に入ります。今年も江田島市

能美町にある能美海上ロッジにて総会および懇親会が開催されました。修道学園(中・高)同窓会より貫名賢副会長、学園からは杉田浩光事務局長がご参加くださり、総会では副会長よ



# 支部活動報告

り修道学園の近況報告がありました。会員の皆さんも報告に頷き、嬉しそうでした。いつまでもたっても修道ファンです。懇親会も一年ぶりにそれぞれの近況報告に花が咲き、楽しい一時もあつという間に過ぎました。最後に参加者一同が輪になり肩を組みながら校歌を歌い、来年の再会を約束して閉会しました。

## 修道医会平成27年度(第59回)総会報告

修道医会事務局長 大段 秀樹(高33回)

修道医会は修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は1,000名以上です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会(野球観戦)等を催しています。平成20年から学生部会をつくり、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は平成27年7月18日(土)、ANAクラウンプラザホテル広島を会場に開催しました。午後4時30分より評議員会を開いた後、午後5時からの総会において、平成26年度の事業報告や決算報告に加えて、平成27年度の事業計画や予算が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。第17回学術奨励賞は2名の受賞となりました。高校48回卒の安達智洋先生(広島大学病院消化器外科)が、大腸癌領域研究の振興に関する論文業績によって受賞、高校48回卒の亀井豪器先生(市立三次中央病院整形外科)が、前十字



第59回修道医会総会懇親会

韌帯再建術における軟骨損傷回避のための新たな手技の開発に関する論文業績によって受賞されました。第15回社会功労賞は、児玉 哲郎先生(高校18回卒)が受賞され、第8回文化功労賞は、原田 廉先生(高校13回卒)が絵画での輝かしい経歴を対象に受賞されました。次いで午後5時半より特別講演として、高校24回卒で小林弘祐先生(北里大学学長)より、「ガス状分子による治療の可能性について：NOと水素」と題した講演を拝聴しました。

午後6時半からは会場を移して懇親会を開きました。土肥博雄会長(高校16回卒)のご挨拶に引き続き、ご来賓の、貫名賢修道学園(中・高)同窓会副会長、竹内功広島市副市長よりご挨拶を頂きました。田原俊典校長から学園の現状を伺いました。さらに前述の3つの賞の表彰と受賞者の謝辞が続き、神辺 眞之先生(高校13回卒)のご発声で乾杯して懇談に移りました。途中で、榎野新先生(高校20回卒)中国労災病院病院長、木矢克造先生(高校21回卒)県立広島病院病院長のご紹介、ご挨拶がありました。学生部会からは6名が参加し、自己紹介をして頂きました。今回の参加者は81名でありましたが、最後に肩を組み校歌を斉唱し、修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

## 第51回広島修道歯科医会総会

毛利 雅哉(高31回)

平成26年11月8日(土)午後4時より「ANAクラウンプラザホテル広島」において、第51回修道歯科医会総会が開催された。

総会は久保康治専務理事の司会進行で行われ、まず、大原省三会長より出席した会員に向けての挨拶があった。引き続き、各部からの報告等があり、今年度は大きな協議事項もなくつつがなく終了した。

総会に続き午後4時30分より講演会が行われた。今年度は講師に広島県警察歯科医会専任理事の本山智得先生に



お越しいただき、「警察歯科医会の活動について」人が受ける最後の医療」と題する講演をしていただいた。平成26年8月に安佐北区を中心起きた土砂災害における身元確認作業の様子を中心にお話をしていた。警察と協力しながらおこなう過酷な現場の有様に「同言葉を失い、唯々出務された先生方に頭の下がる思いで講演に聞き入っていた。記念写真の撮影を挟んで、懇親会が同所で午後6時より行われた。例年通り、田原校長にご来賓としてお越しいただき、母校の現況についてお話をいただいた。同じ修道の同窓として和氣 藹々とした時間を過ごし、最後に「同輪」になって恒例の校歌斉唱でお開きとなった。



## 原爆直後の 校舎写真みつける

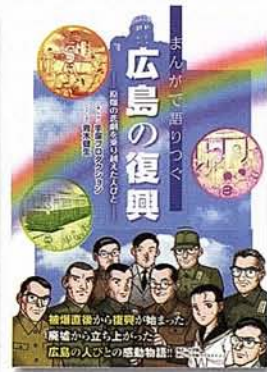
平成26年7月24日産経新聞に「原爆投下直後のヒロシマの写真が新たに見つかった」との記事が掲載されました。その中に昭和20年10月31日撮影された修道中学校の校舎の写真が1枚ありました。校舎南側の壁が剥ぎ取られた校舎で生徒が授業を受けている様子が確認できる非常に貴重な写真です。



米国国立公文書館所蔵、広島平和記念資料館提供

「まんがで語りつぐ広島島の復興  
—原爆の悲劇を乗り越えた人びと—  
被爆70周年にあたる本年7月に出版された本書(小学館クリエイティブ発行)は、広島が原爆投下による壊滅的被害から復興を遂げてきた記録を「まんが」という形でまとめています。被爆者やその所縁の方々へのインタビュー、地元企業の社史、あるいはさまざまな団体や教育機関の記録などから、復興秘話を掘り起こして作られました。

第6章「ともに学ぶ学校への再開」の133頁に、「原爆が投下された後の修道中学校」と同じ九月二五日に授業を再開した」というコマがありますが、この2コマはまさしく前述の「原爆直後の校舎写真」を参考に描かれたものです。



修道の復興への意欲・執念を垣間見ることが出来る一冊です。

も得た2年生の頃から、学徒動員令により、上級生は順次、兵器工場に出勤し、学校にはわれわれ2年生と1年生だけになった。

8月6日、市役所東側、旧雑魚場町での建物疎開作業中、「二発の原爆により、阿鼻叫喚、火の中を逃げまわり、同級生の大半136名は無惨にも焼き殺された。学校は校舎倒壊、修道は消えた。

あの日から69年、われわれは、死を見つめ、命を思い、生き残った後ろめたさの深い思いを胸に「激動の昭和」を生きた。

2014年(平成26年)、修道で出会って70年、年齢83才の今、不思議なことに、時所を問わず、突然に当時の中学時代の童顔と1年4ヶ月の思い出が鮮明に脳裡に浮かぶことが多い。恋もせず、結婚も出来ず、子供も育てず、そして孫も抱けずにわずか13才、青春の入り口で早く逝った君たちと苦難の人生を共に生きたかった。噫々無情悲哀なる哉。

君に会おうと修道にいったのではない。修道にいったら素晴らしい君に会えた。終生敬愛する恩師、先輩、後輩にも会えた。人生、出会いの不思議さ、面白さ、ありがたさを噛みしめながら「修道のご縁」を心から深く味合う。

## 修道で出会う70年 中一の逝友と69年

永谷 道孝(高二回)

毎年8月6日、高校2回卒は母校に参集して、旧正門横にある慰霊碑に参拝し、逝友の名前を指でなぞりながら追憶冥福を祈る。そして戦争と平和問う。1944年(昭和19年)、修道中学入学、ようやく中学生生活に馴れ、生涯の友



(2015年8月6日3F 第1会議室で)  
永谷、林見司、高橋、西田、森島、大石、上杉、下村  
阿部、福田、林孝治、西亀、折出



(2014年8月6日 修徳慰霊碑横の一室で)  
福田、西田、永谷、下村、折出、大石  
林、遠山、細川、阿部、高祖

ありがとう修道、感謝 感謝。  
参照 中吉啓治氏(旧中33回卒)に  
聴く戦後修道復興の礎  
修道学園史研究会 畠 眞實氏(高  
校7回)編  
八月六日の修二会の集まり  
修二会(昭和20年に旧制中学2年・昭和25年に修道高校2回卒まで)は、毎年



8月6日(8時~11時)に上記の慰霊碑の裏に刻まれた同級生136名の名前を手でなぞりながら、悔しさと懐かしさをこめて互いの近況などを語り合い、事務局からの好意のお茶とお菓子をいただきますながら喪に服しています。

今年は、遠方からは姫路から高祖君、岡山から細川君、山口から折出君の3氏のみえた。

## 故前田正行被爆体験記

前田 笑子(故前田正行姉)

昭和20年8月6日被爆。私立修道中学校2年生満14歳。寄宿舎生。生徒動員で雑魚場町(現国泰寺町、爆心より1km以内)で建物疎開の後片付け作業中。遮蔽物なし。突然の黄色、ピンク色の閃光、雷光の千倍くらいの明るさ、炸裂音、灼熱に襲われて失心。気付けば左半身大火傷、後頭部裂傷。衝撃で耳が聞こえず、目見え。暗闇の中、明るい東方の鶴見橋迄、猛火の中を潜り抜け、自力でヨロヨロ歩き、大八車に拾われて、午後被服支廠へ収容された。

10日間位、幽明を彷徨う。後、担架で兵器支廠へ移されて10日間位、その間注射1本、トマト、桃を農民より差し入れて給う。実家の隣人が探し当ててくださり、その竹内家のトラックで山県郡八重町寺原(現北広島町寺原)の実家へ運んで下さる。

闘病中、発熱、頭髪抜け、鼻血、歯ぐきの出血、皮膚への紫斑という急性原爆

白血病の極限に至れど、火傷は母親の必死の手当と、母が呼んだ祈禱師さんがジュージュクの火傷に振り掛けた灰のような粉で不思議にカラカラになり、皮膚が皮剥けて徐々に癒えてきた。目も見えだした。12月頃、地元の小林医院で自己採血して、それを筋肉に注射する治療を2~3回受けて奇跡的に快方に向かうが、以後、体力虚弱、疲労、貧血、時々胸の痛みあり。

翌21年体調回復後、私立修道中学校から私立新庄中学校へ転校する。昭和25年広島新庄高等学校を卒業する。昭和29年明治大学英文科を卒業する。昭和30年広島新庄高等学校英語教師となるも、昭和30年代30~40歳頃不整脈で広島市民病院へ時々通院する。

昭和48年頃より循環器疾患で安佐南区日高内科医院(教え子)へ通院する。広島新庄高校教諭を30年間勤めた後は、英語塾、平成宝樹館を経営し、学生達に英語を教えることが生きがいであった。平成11年2月心筋梗塞で広島市民病院へ救急で入り野間先生治療、ステント2個、2月8日~18日の11日間入院する。以後、毎月検査診察を受け投薬の歲月。

平成21年1月7日脳梗塞になり、広島市民病院で治療し、日比野病院(沼田町伴)で療養快復する。毎月、診察、検査に市民病院に通う。

平成25年頃体調が悪くなり出す。平成26年2月広島市民病院で入院・治療をしていたが、腸閉塞となり手術を施行

されたが、看護の甲斐もなく平成26年5月13日、84歳の寿命を全うした。

原爆という惨劇に遭遇し奇跡的に助かったものの、被爆者であるというトラウマを内奥し、生涯独身を貫き教育者として人生を捧げた。実に誠実で優しい弟であった。

百歳まで 生きたいと云う 常日頃  
善き人は 早逝きませり 天国へ

## 藍染絵

「NO MORE HIROSHIMAS」の寄贈



形山榮依子氏



「NO MORE HIROSHIMAS」

形山榮依子氏は、本校卒業生の憲誠(のりまさ)氏(高36回)の御母様で、風呂呂先生は憲誠氏が中1の時の担任でした。憲誠氏は徳島から広島に引越して、修道中学校に入学しました。入学の動機は、御父様が医者であったので、「修道がいい」ということで修道に入学したいということでした。

形山氏のご主人は、憲誠氏が中2の時亡くなられました。形山氏はそれから藍染を始め、1983年日本現代工芸会展に初入選されました。

この絵は、2001年10月に形山氏から風呂呂先生に寄贈されたものです。

これまで風呂呂先生が家に飾っていましたが、2015年は被爆70年の節目の年にあたるので、「一人で見ると、多くの人に見てもらった方がよい」との思いから、修道に寄贈することにされました。形山氏もこの作品には、ヒロシマへ、また、平和への強い思いがあると語っておられます。

平和への誓いを新たに、被爆50年に寄贈された平山郁夫画伯の「原爆ドーム」の絵と共に「NO MORE HIROSHIMAS」は、修道学園で大切に保管されることとなります。

2015年1月23日(金)修道中学校・高等学校本館応接室において、修道高等学校元教諭風呂呂(ふるおかたし)氏(高校8回・昭和38年~平成2年在職)より、形山榮依子(かたやまえいこ)氏の「NO MORE HIROSHIMAS」と題する藍染絵の寄贈がありました。





竹馬の友・藤田正明君(旧中30回)は俳句には無心だつたと思う。逆に参議院自民党の闘志だつた。国対委員長として、人心の機微に触れることに敏感で、絶えず微妙な気配りを心がけていた。議長として超党派の気遣い。

凡人は働き過ぎて春の風邪

シーズンの移ろいには、日本人は機敏である。正明君はそこに追従、季節感には十二分に配慮していた。その裏には風情(俳諧≠俳句)が潜んでいたに違いない。それは世界で最も短くて奥深い詠である。見たまま、感じたままを詠む写生句でなければならぬ。国対委員長には阿吽の言葉を駆使する必要がある。これ俳諧(俳句)を作る心である。

それには人は心を選択、洗濯しなければならぬ。国対委員長として同様であり、動揺しては駄目。童謡でも歌う軽い気持ちが必要。

正明君は、被爆で会社も自宅も倒壊、焼失。それを鯉の滝登りで見事に再建、繁栄させたファイターで、原爆忌には精神の広島子として人一倍の気配りを怠らなかつた。その「虎の巻」として天国の正明君と「五日会」(正明君を兄と慕う修高OBの集い)に以下の拙文を捧げよう。生き返って欲しい。

あの8/6には修高2年生がほとんど被爆死したという、痛ましい日である。

被爆は厳然たる事実で、過去の悪夢ではないはず。今年是被爆70年に当たる。世界平和にとつては重要で厳粛な年を迎えた。被爆地は単なる観光都市ではない。風化させてはならない。安らかに眠つて欲しい。

「二度目は過ちでも、二度目は裏切りだ。死者たちへの誓いを忘れまい」(栗原禎子)

藤田正明君は8/6には、朝4時に入浴し水は飲まず、食わずで仏壇に礼拝。同6時に平和公園の北隅にある供養塔(無縁塚)の諸宗派合同の慰霊式を主催、被爆遺骨で氏名は分かつてはいるが、その引き取り人の不明な815柱を偲ぶ。次いで参議院議長として平和公園の平和記念祈念式典に出席して献花、慰霊の言葉を述べ、玉の汗を握る。また汗を拭うが、ハンカチは用いられない。汗との戦いが続く。

「平和は、憲章や盟約だけに根ざすものではない。それは人々の心情のなかに根ざすもの」(ケネディ/アメリカの政治家)を心に刻みながら以下の名訓を受け継いでいた。

「施して報を願わず/受けて恩を忘れず」  
(大熊重信/早稲田大創立者)

成せば成る成さねば成らぬ玉の汗

「世の中で一番寂しい事は、する仕事のないこと」(福沢諭吉/慶応義塾大創設者)

「偶然は、準備のできない人を助けない」

(パスツール/フランスの化学者)

「前例がないから、やってみよう」(糸川英夫/国産ロケット開発者)

愚生は8/6の式典には出席しない。専ら原爆ドーム前でダイインをする。次いで近くのプールで泳いだり、歩いて飛沫を浴びる。北窓に広島城が見え隠れする。水は一切飲まない。プールは美しい恋人で、いつも笑顔で迎えてくれる。

天仰ぐダイインの地に気骨ある人の原爆忌

プールは庭よ持つて来いの鯉の城  
泳いだら、体重が300〜500g減る。汗が出るからで、この時だけは水分が必須。



今年の5月27日、正明君の18回忌には三滝の丘の墓前で、たばこの吸いやいこをした。暑い何の今年最高の地も灼けるような厳しい夏日だった。木陰も欲しい地熱である。

緑陰に車座となりぬ正明忌

これを受けて、至りや応と…、地の灼けて座らず立つて五六服

以上のような日々の対人関係や社会生活について筆立てを空き家にして、取っ置ききの学識を引き出す。

「人間の信頼関係というものは、普段からくだらないことでも話し合うこと。そういうところから少しずつ生まれてくるものだ」(森 祇晶/元読売ジャーナリスト捕手、元西武ライオンズ監督)

「人間というのは、だんだん年齢をとると、停泊地が欲しくなるものだ。それは長年知り合った人であり、一番親しい人だ」(チャップリン/イギリスの喜劇俳優)

できぬ我慢するが看板ロマンの夕涼み

「何が足りないか。ロマン、我慢、そらばんとありますが、いちばん足りないのは我慢です」(丹波宇一郎/伊藤忠商事元会長)

「スランプは、好調な時にその原因が作られている。だから、好調な時がいちばん心配です」(川上哲治/元読売ジャーナリスト監督)

「全員の考えが同じだということは、誰もよく考えていない証拠だ」(ウォルター・リッブマン/アメリカの政治評論家)

「二人殺せば殺人。千人殺せば英雄」(中国のことわざ)

殺されるのはまだ早い。「三十六計逃げるにしかず」。

今日は8/6。愚生の私淑する「茶に代わって、一切を「月見」の拙句で締めよう。今年の仲秋の名月は陰暦8月15日(陽暦9月27日)になる。間もなくである。不粋者だが、楽しみにして待つ。その夜の空のご機嫌が気になる。団子や芋もそうだろう。



現ナマで買えない健康と握る汗

## 顔

小林一茶(1763~1627)  
江戸後期の俳人。3歳で生母に死別。継母に育てられた幼児の生活がその句風に表れている。諸国を漫遊し、52歳で妻帯。信州に落ち着く。著に「七番日記」や「おらが春」「父の終焉日記」など。

やせ蛙負けるな一茶ここに在り

自分の身分生活を暗示、ほこりを払って、誇りを抱いている。

これに対し、文豪・芥川龍之介は堂々と詠む。

青蛙おのれもヘンキぬりたてか

街の郵便ポストの真つ赤に比べてみたい。その下と郵便番号の下のマークは何を意味するのか。手紙の「テ」の字ではない。郵便局と電話局は昔から通信省管轄でその「通」の「テ」から由来。



## ▼懐旧録

この語りで最も懐かしい話を思い出した。わが旧中水泳部の全国的「階級」ほどの程度だったのか？ 戦前は昭和7(1932)年、全国中学校水泳大会を制覇。この時は高知中学の北村選手(自由形)がオリンピック大会へ出場して留守だったからという世評が常識だった。愚生はその翌年に旧中へ入学。学内では今年こそ、北村選手の出番があるので、どうしても全国優勝を果たすと意気込んでいた。全国一流の部員1~2人を含

め、猛練習の汗をかき、目的達成！ 2年連続日本一を飾った。

戦後のインターハイでは林正夫君(高11回)らが惜しくも僅差で優勝を失し無念！ 母校は進学一途の学園にリターン、部活は陰を潜めている。これまた無念！

「素晴ら四季五七五川柳の季語ある記」

爆心の旅鳥「集つ黒合羽」

短冊を懐に爆心へ初懐紙

初日の出日の丸の○笑む爆心地

初ある記原爆ドームの季語ある記

隠れ吸うバットも晴れの成人日

長旅で足袋のほつれや手におえず

算盤を弾けば電卓山笑う

原爆ドームの瓦礫の穴に残る雪

爆心でバット吸いバットで打たれ落第生

おい出やす笑ってますねん嵐山

土筆土手黙って行けば筆の町

原爆忌祖母語りながらぬ70年

黒い雨に落ち来し鰻被爆川

8/6や四の五の言わず九日も

ケロイド乙女神父の配慮で髪洗う

ギター流し爆心ネオンの流川

被爆手帳心は癒えぬ原爆忌

川拜む南無骨迷う原爆忌

墓に水を仏にも水や原爆忌

70年語り部も2世の原爆忌

原爆忌水断ち座禅の仏の間

介護犬も転びてダイイン原爆忌

山頭火爆心に寝る原爆忌

鯉のぼり走るカーブの外野席

赤ヘルの勝つて甲の鯉のぼり

脚長に釣瓶落としや原爆ドーム

ツキを呼ぶゴツを学びし居待ち月

携帯で撮る紅葉且つ散る原爆ドーム

人は家訪い秋風は爆心を訪う

爆心のバス停終日うそ寒し

爆心の晴れて傘さす雪ダルマ

赤ヘルの●一つずつ減す春の夢

ユニオンジャック無風にも起つ原爆忌

原爆1号諸肌を脱ぎ米兵仰天

原爆ドーム櫓を巻かれ蜘蛛の糸

ナイターの黒田に脚光お立ち台

ダイインの終日水断つ原爆忌

炎天を父さん散歩の熱気球

反核の集う平和や原爆忌

未来図は描けぬ曇りや原爆忌

教え子の祖父に教わる原爆忌

エキストラの斬られて死んで三尺寝

宇宙船見下ろす地球の原爆忌

爆心の柳橋で涼む柳腰

父母眠る爆心は素足のハダシのゲン

肋骨の原爆ドームや余花白し

祈るんじやのう猫も杓子も平和祭

中華旗や大使館半旗の原爆忌

寺町のやねこい坊さん水を打つ

神鳴りの落ちてても消えぬ缶Pの火

稲荷さん浴衣に靴の下駄屋町

赤ヘルの行きつ戻りつ赤のまま

名月や重なる二人の影つ

天高きピアノの上の金平糖

夾竹桃の結ぶ爆心の橋と橋

秋風に髪髪ゆるる尼の法衣

ツキのつきカーブの逆転A月

猫の鈴軒に居座る盆踊り

牡蠣船を抱き威容の原爆ドーム

牡蠣船の乙な三味の音橋渡る

後書きに替え威張って仕舞う冬將軍

あとがきに替えて

前略 この刷子の見出し「原爆忌」の下にアインシュタインがなぜ相対するのにかについて一筆啓上する。



アインシュタイン

Albert

Einstein

(1879~1955)

ユダヤ系ドイツ人でアメリカの理論物理学者。ミュンヘン・アラウのギムナジウムを経て、スイス国立工芸学校物理科を卒業、ベルンの特許局に就職し、静かな研究生活に入る。



アメリカ大統領に原爆の蜂の巣を贈る

1905年、画期的な特殊相対性理論、ブラウン運動の理論、光電子の理論を発表。その相対性理論では、質量がエネルギーに変わることを、ひいては原子爆弾の可能性を予言している。これらの業績が認められ、プラーク大学、ベルリン大学教授に招かれた。

第一次大戦中の1916年、相対性理論を加速度運動の場合にも成り立つように拡張した。一般相対性理論を数学者の協力によつて完成させる。この理論は19年、イギリス日食観測隊により確認された。21年、ノーベル物理学賞を受賞。その後、世界講演旅行を試み、22年に来日、学界、思想界に大きな影響を与えた。

ナチス政権の台頭によりドイツを追われて33年、アメリカに居住、プリンストン高級研究所教授に就任、ここで統一場の理論の研究に打ち込んだ。ルーズベルト大統領に対して、ナチスに先じて原子爆弾の研究に着手せよと、勧めたことは有名である。

そう言えば、正明君は74歳の早生だった。少なくとももう数年は生きていて欲しかった。広島は大きく様変わりしているはず。働き過ぎが命取りとなった。もっと人生を楽しむべきだったろう。堅物より柔軟な芸術でもわきまえた身構えを夢見る。

耳二つこれが宝よ第九聴く

「人間は目を二つ持つが、舌は一つである。という事は、しゃべるより二倍も観

察(聴く)ためである。」(コールトン／イギリスの警句家を応用に至る。

「広島に落ちた原爆は、アメリカにも落ちた。一億五千万人に落ちた」(ハーマン・ハゲドーン／アメリカの詩人・作家)

「健康な人は自分の健康に気がつかない。病人だけが健康を知っている」(カーライル／イギリスの作家)

「健康は第二の富である」(エマソン／アメリカの詩人・哲学者)

「疑う余地のない純粹な喜びの二つは、勤労のあとの休息である」(カント／ドイツの哲学者)

「疲労は最大の枕である」(フランクリン／アメリカの政治家・実業家)だが、その枕の高低が問題になる。

「さようなら、じゃあ、また、と言っておこう。また会えるのだから」(マークトウエーン／アメリカの作家)

広島市西区ふじハイツに暮らして半世紀。ここが終の住み家なろうとは霧立つ旧中を望む日々。先輩／同輩／後輩までも成仏。毎朝、小富士の手前の母校を拝むのみ。南無合掌。

亡き友と語らん霧降る母校の庭  
海に浮く小富士の天や高き旧中

諸君に気に入らないことを随所に語ったが、次の名言で許して欲しい。

「よい記憶力は素晴らしいが、忘れる能力はもっと偉大である」(ハーバート・ジョージ／イギリスの神学者(1593-1633)年。

人物往来

東北郡山から修道を想う

奥羽大学長 赤川 安正(高20回)



呉に生まれた私は、修道中学・高校に学び、広島大学歯学部に入學、大学院生、助手、講師、助教授、教授と

Indreeding なキャリアパスを選び、平成25年3月に広島大学を定年退職しました。ご縁があつて平成25年4月より福島県郡山市にある学校法人晴川学舎奥羽大学で学長を務めています。

大学の前身は昭和47年創立の東北歯科大学であり、平成17年に薬学部を開設し、今日まで歯学部4,057名、薬学部542名の地域医療の担い手を輩出しています。大学全入が現実となりつつある中、人口減少が急激に進む東北地方にある本学での私の仕事は、建学の精神である「人間性豊かな医療人を育成する」ことをもつと魅力的に語り、ビジョンと達成プロセスを示し、教職員一丸でそれを実行することです。東日本大震災や福島第一原

発事故の影響や風評被害はいかんともし難いものですが、自らの努力で教育力をさらに磨き、アカデミアでの革新的研究や先進的な臨床を推進すること、本学の価値を高めようとしています。今年度から新しい特待生制度(6年間授業料無料)と教育イノベーションも始めました。本学キャンパスは東北第2の都市郡山にあり、四季折々に花が咲き誇る自然豊かな美しいものです(私は毎朝鳥の鳴き声を聞きながら学長室に入ります)。皆様の息子・子女が「歯科医師・薬剤師になりたい」場合には是非とも本学を選択肢に加えてください。

広島大学で教育者・研究者・臨床医としての道を歩み、いま私立大学のガバナンスを担っている私の礎は、朝早くから呉線の蒸気機関車に乗って仲間と通った自由奔放の修道6年間に築かれました。「知徳併進」「質実剛健」の校風、それを支える恩師の指導、同期や先輩・後輩と育んだ友情などにより、私は「生きる力」を授かりました。

「人間性豊かな医療人を育てる」ことに邁進するにつけ、修道時代に培われた多くのことに思いをはせ、それらが自然に身につけていることに気づきます。難題にぶつかる度に「高き理想に生きるなり」を思い起こし、挑みます。「見よや修道魂を」でしょうか。修道に学んだこと、修道生のひとりであったこと、私の生涯の誇りです。



## 修道三九一会

奥本 博(旧中39回)

私達、修道三九一(みくいち)会は、去る平成26年9月9日、毎年恒例の総会を広島市内で開催しました。

修道三九一会とは、昭和18年の春入学をして、戦争が激しくなるにつれて勤労奉仕に続いて学徒動員に従事し、あの原爆の惨禍にも遭い、昭和22年の学制改革により旧中39回で卒業した者と、翌年高校1回で卒業をした者のみなさんの同期会であるため、このように名づけられました。同期の者の誇りは、あまりに



も有名な日本画家の平山郁夫さんと一緒であったことですが、残念ながら平成21年12月2日に亡くなりました。

総会当日は、遠く関東と関西エリアからも駆け付けた者を含めて21名で、この二年間に亡くなった友人6名に黙祷を捧げ、世話人代表坪田幸雄君の挨拶、広島大学名誉教授の檜原忠幹君の瑞宝中綬章受賞を披露し、その外の諸行事を終えて親睦会に移りました。終わりに石本芳郎君のリードにより修道校歌と応援歌の斉唱をして、盛大に有意義な集まりができました。ついでながら、記念写真の中央に掲げてある修道三九一会の旗は、麓 忠義君が自費で作ってくれたものです。

その後、数名で急遽久しぶりに学校に行き、近川事務局長のご案内で修道学園所蔵記念品室、原爆死没者追悼慰霊碑、旧広島陸軍兵器補給廠の外壁煉瓦モニュメント(これは修道三九一会が恩

師景山英俊先生からもご出宝を頂き、平山さんの碑文、兵器廠の写真、説明板を添えて慰霊碑の近くに設置したものです)、移築復原完了の「修道学園所蔵」及び人工芝のグラウンドを見てまわりました。更に昔からあるプールの話になり、事務局長に被爆直後(同年9月上旬と思われる)米軍が撮った修道を中心とした全景と大破した当時の新校舎の鮮明な写真二枚を見せて貰いました。よく見ると新校舎の南壁面が全く無いにも関わらず、このような場所を取り敢えず授業を受けているのでしょうか、生徒が多数写っているのが分かりました。プールの飛び込み台も見えます。このことは学校関係者の方々としても今まで気づいておられなかったようで、このたびのみんなとの話し合いの中でお互いに確認をすることができました。当日は、突然の予告なしで学校に行きましたが、次回は、大勢で行かせて貰うことにしたいと思います。

## 四期会報告

河野 富士雄(高4回)

わたしたち高校4回生は、昭和27年3月に卒業しました。今年には年号が平成になつて同じく27年、卒業後63年目にあたります。同期会を毎年開くようにたつた最初は昭和48年4月14日、中区三川町の料亭新月に集まった者71名でした。それから42年を経た今年の6月13日、メルパルク広島に顔を見せたのは



29名、80歳超としては良く集まったといふべきでしょう。あと半年で90歳におなりの恩師田中喜久治先生もお元気なお姿を見せてくださり、嬉しいことでした。



## 関東地区四期会報告

皆川 孝一(高4回)

四期会の関東地区の集まりは、平成25年11月に開催して以来少し間が空きましたが、今年、半壽(81才)の齢に達したことの祝賀の意も含めて久しぶりに集まろうということになりました。

7月13日。埼玉、千葉、東京、神奈川の全域から、交通至便でアルコールにも溺れぬようにと、東京駅ステーションホテルの喫茶店に場所を設営し、7名が元気な顔を合わせました。話を聞きつけ上京の木島丘君も参加、ビールも少々入って談論風発、木島君から最近の広島の様子を聴いたりしながら、楽しいひとときを過ごしました。

便利な場所を選んで、またこのようにして集まろう、と再会を約して別れました。(平成27年7月)



## 修六会 傘寿の会

諏訪 惇(高6回)

「宮島」という言葉を耳にすると、少年時代のマラソン、競泳など、そのころのことが彷彿として思い出が尽きないと思います。

平成27年6月6日午後、宮島口からJR連絡船に乗って望む「弥山」の頂あたりは霞んで少々老けて観えましたが、久しぶりに見る厳島神社の佇まいは、干潮時だったものの、荘厳で美しく、さすが「日本三景の一つ」と改めて感嘆した次第です。

ホテル有もと(社長・有本啓治・高10回生)は、厳島神社のすぐ近く(徒歩5分)の山肌に張り付くように建てられており(第一期工事は当時大林組にいた同級生の川西光治君が担当したそうです)棧橋より小型バスで山中を通り、ホテルには最上階の五階から入り、2階のロビーへという意表をついた誘導で面白く、また内装・内容もしっかりしていてなかなかのものでした。

宴会は6時から72名の出席で始まり、卒業以来初めて顔を合わすという面々もいて、それはたいへん盛会でした。(感謝)事前に集合写真を撮りましたが法被姿は51名、実に壮観でした。(石崎焜君の話)法被が見当たらないので、高木恭之君に助けを乞うたところ、東京出発列車のプラットホームまで届けてくれたそうです)司会は本西君が担当。奥窪君が修六会の現在に至るまでの経過を報告して、乾杯は鶴野君。残ったエネルギーを絞って新しい友達を創ろうと意

気軒昂でした。近況報告は深田明彦君と小島義治君、終わりは例によって赤松君の音頭で校歌斉唱、二次会は420号室で(当該室の方々には大変)迷惑をおかけしました。夜遅くまで旧交を温めました。(小島義治君はロビーでピアノ、フルートの伴奏で美声を張り上げていたようです)翌日朝食後解散。忙しい人は朝食も取らずに出発。元気で時間の余裕のある人達は、神社参拝、弥山へと出かけていきました。



傘寿の会も終わり次は米寿。医療は目覚ましく進歩しております。その時まで頑張ってみようと同期生に声を掛け合っているところです。

なお、「高校卒業して60年にして思うこと」と題し、傘寿を記念して小冊子を作りました。

同窓会事務へ提出しておりますので、関心のある方は是非一度読んでみてください。



## 卒業60周年記念「修七会」開催

会長 世話人 山下 泉(高7回)

我々修道7回生(修七会)が昭和30(1955)年に卒業して60周年という節目の記念大会を開催した。

去る7月4日(土)リーガロイヤルホテル広島において総勢71名の参加となった。特に記念大会ということで、関東修七会(会長杉山幸二君)を中心に20名、そして恩師の保澤治、小田和磨(旧姓久保田)、川野親治の諸先生と現役の田原俊典校長にもご出席頂きました。

当日、中学時代に球団が誕生してから見とどけている広島カープの現在の熱狂ぶりを見せる為、ヤクルト戦の観戦を20名で行った。真っ赤に染まったマツダズームスタジアムを見て驚嘆した。残念ながら降雨の為1回で中止となったが、盛り上がった雰囲気だけで満足し



たと喜んでくれた。

例会は6時30分よりホテルで開催した。金子慧先生、及び修七会7名のご逝去を悼み黙祷した後、会を始めた。

修七会発足以来の会長を務めた森本弘道君、大下龍介君、松田欣也君、山本戸道郎君の4名に対して全員で感謝の意を表した。代表に森本君が挨拶をし、当時の想い出を語った。

本来なら世話役兼会計と司会を担当していた吉田邦介君が、体調を崩し欠席となったので、急遽、中元正彦君、池田康武君に担当して頂いた。

又、多忙の中、久し振りに参加した亀井静香君が衆議院議員として13回目の選挙に当選したお礼を兼ねて、現在の政局について話した。特に50名の超党派を集め、「根っここの会」の代表者として地域活性化活動について説明した。亀井節は益々冴え、当分元気で頑張る決意であった。

田原校長には、修道中高の現状について力強い報告をうけ、皆で期待を込めて賛辞を送った。

全員79才か80才とい



う老青年であり志気は高いが、やはり話題は健康のことが中心になっていたようだ。

最後は元校長の畠眞實君の音頭で校歌を斉唱して二次会を終えた。二次会はホテル最上階のリーガトップ라운ジで40名ばかりが談笑した。結束の固い修七会であり続ける為には「元気で長生き」をテーマに来年の再会を誓った。

## 高校38回同期会報告

出原 寛之(高38回)

卒業して30年の節目となる今年、学年全体の同期会を、修道学園(中高)同窓会の幹事でもある大方幸一郎君の世話で、平成27年7月19日(日)、12時からホテルグランヴィア広島で開催しました。このような全体会は10年ぶりとなりますが、当日は59名の同級生に加えて、5名の恩師にも参加していただきました。中でも、県外から多くの同窓が遠路はるばる参加してくれたことで、久しぶりの再会に、いっそう花を添えることができ、様々な意味で30年という時間の流れを実感させてもらえる会となりました。

開会後の余興では、県外からの参加者の近況報告から、30年前の卒業アルバムのスライドショー、恩師からの教え子への珍アドバイス、風呂哲州君の独演会と続き、最後は全員で肩を組んでの校歌斉唱と、あつという間の2時間半でした。

その後も名残が尽きず、夜まで街中へ繰り出す同級生もいましたが、同、次回の同期会での再会を約束し合っていました。

## 同年記念同期会



## 記念同期会



## 修道高等学校38回 卒業30周年記念同期会





### (サンキュー会) 特別授業の報告

幹事 北村 直幸 (高39回)

高校39回卒の私たちは、同期会サンキュー会と称し、毎年12月30日に広島市内で集まって旧交を温めています。ここ数年は、宴会の前に、国内外で活躍中の同期生に1時間ほど現況を話してもらい、好評を博しています。三分一博志君(世界で活躍する建築家)、阿部伸二君(Google for work 日本代表)、井村光明君(博報堂CMプランナー)に続く、今年の演者を選んでいた頃、恩師小泉健司先生が今年度をもって修道を退任されるという話を聞きました。小泉先生は、39回生の担任教諭の中では最もお若く、現在ただ一人現役で修道に勤務されています。先生が最初に担任されたのが私たち39回生ということもあって、今でもたくさん同期生が先生と交流があり、私たちにはとても縁深い恩師の一人でいらつしゃいます。

そこで、今年の同期会では小泉先生に修道中・高の教室にて現役最終年の特別授業をお願いすることにしました。先生には年末のご予定をキャンセルして引き受けていただき、近川事務局長さんには教室の使用を快諾いただきました。

平成26年12月30日15時30分、約50名の同期生が母校本館前に集合しました。休日出勤の上出迎えてくださった事務局長さんに、まずは体育館、人工芝グ

ラウンド、食堂をご案内いただきました。卒業後初めて母校に足を運んだ者も少なくなく、皆30年前とは比べようもない恵まれた環境に驚嘆していました。

その後小泉先生が待たれる教室に集合、16時10分、山岡良浩君(日本航空)の「Stand up」の号令の下、特別授業の開始となりました。驚いたことに、ここが始まったのは5年生用教材を使つての英語の授業そのものでした。かつては多くが嫌々受けていた授業でしたが、この日は誰一人嫌がる様子もなく、ある者は得意気に、ある者は薄くなった頭部を撫でながら、次々流れてくる難解な英単語にあわせて大きな声で発音し、ヒアリングテストにも本気でチャレンジしました。テストの結果はさんざんでした(私だけではないはず)が、仮に今この授業をしばらく受けることができたなら、必ずや英語力が上達するに違いない、と誰しもが感じたはずです。30年前は居眠ばかりして怒鳴られていた輩も最前列で目を輝かせながら先生の言葉に聞き入っていました。テストに続いて、待ちに待った小泉先生の人生訓が語られました。英語を用いての語り、前半の授業が導入となつたのか、ごく自然に心に沁み入つてきて、なんとも奥深い講釈となりました。ここで、私が最も印象に残った二節をご紹介します。

*We spend our life doing little things with great love.*

小泉先生はこれを「人生は心を込めた暇つぶし」と訳されました。

名残惜しみながら母校を後にし、懇

親会会場のホテルセンチュリー21広島に移動しました。18時から、途中参加の数名も加わつての第二部。既に他界された恩師、同期に黙祷を捧げた後、恒例となつた菅川洋君(元衆議院議員)の乾杯の発声で開宴となりました。会では例年のように参加者全員が約一分間で現況を報告、それぞれが特徴ある話し方、内容で笑いを誘い、あつという間に時間が過ぎていきました。全員のスピーチが終わったところで、小泉先生に登壇いただき、あらためてお言葉を頂戴しまし

たが、締めは沢田研二さんの「TOKIO」を熱唱というオマケつきで、盛り上がりも最高潮に達しました。

興奮冷めやらぬなか、特別授業への御礼として、当日の出席者全員がメッセージを添えた即席アルバムをお渡ししました。これは、山岡良浩君、村澤昌崇君(広島大学)が、第一部の集合時から第二部にかけて全員の写真をインスタントカメラ(チェキ)で撮影し、各自にメッセージカードを渡して一言書いてもらい、第二部の間に(ほとんど食事もとらず)整理して一冊に収めてくれたものです。先生にはとても喜んでいただけたと思います。

その後、全員で肩を組んでの校歌斉唱、万歳三唱と続いて、最後に記念撮影をして、鳴り止まぬ拍手のなかで、中締めとなりました。会場を出たころでは、先生の胸上げが始まっています。

先生をお見送りした後、まだまだ話足りない面々が、次の会場に向かい、約40名が0時頃まで一堂に会して久方ぶりの再会を満喫しました。

今回仕事や家庭の事情で参加できなかった同期生のためにも、また機会を見つけて是非とも母校での集合を企画したいと思えます。



特別授業風景



元事務局長 田中 佳樹

修道中学校・高等学校退職教職員の集いである「修寿会」(会長・高眞實、会員79名)の第28回総会・懇親会が平成26年10月11日(土)、12時からメルパルクHIROSHIMAで開催され、24名の参加をいただきました。

開会宣言の後、先に逝去された相良 賤彦会員(2013年11月6日逝去)並びに堤慶二会員(2013年12月末逝去)へ黙祷を捧げ、両氏のご冥福をお祈りしました。この後、新会員になられた渡辺省自氏、御手洗毅氏から入会のご挨拶を頂戴しました。河野富士雄氏ご発声による乾杯の後、懇親会へ入りました。

昨年、年1回の修寿会を、会員による日頃の趣味や研究結果の発表の場に、より多くの会員のご参加と、相互の情報交換の場にしたとの提案がなされましたが、これを承けて今回は、吉岐俊平会員による「介護の話」をしていただきました。吉岐会員は、毎月、鹿児島におられる母上の介護のために広島と鹿児島を行き来され、親の介護に尽くされるお話を聞かせていただきました。避けて通れない親や妻、夫、そして我が身の「老い」について、様々な想いの中、熱心に聴き入っておられました。介護の切実さを、大いに学ばせていただきました。



寺山・内・玉置・竹永・北川・吉岐・御手洗・渡辺  
藤澤・田中(博)・木元・街道・中山・仲井・木村・橋口・田中(佳)  
田中(正)・河野・鍵崎・島・小田・保澤・松尾  
(敬称略)

参加者の皆さんからの近況報告は、やはり8・20に起こった土砂災害のお話を中心で、ことに、金子慧会員のお宅が被害に遭われたようですが、幸いご夫婦は介護施設に移られていてご無事だったことを伺い、皆さん様に安堵しておられたようです。

恒例行事である、円陣を組んでの校歌斉唱のご発声を街道武司氏に、田中博司氏ご発声による万歳三唱を行ない、予定した時間を大幅に超過してのお開きとなりました。

次回は、平成27年10月10日(第2土曜日)メルパルクHIROSHIMAでの開催を予定しております。

## 同窓会ニュース

### 佃和夫関東支部同窓会長、母校にて講演



佃 和夫氏(高14回)

去る2015年7月3日、佃和夫関東支部同窓会長(高校14回)が母校修道に招かれ、高校1年生約290名を前に『高校生に期待すること』というタイトルで講演されました。三菱重工業(株)社長、会長を歴任され、現在は相談役の佃氏は、2013年1月より第二次安倍内閣教育再生実行会議の委員も務めておられます。今回の講演では、教育再生実行会議での議論も踏まえ、『(生涯学び続けるための)基礎的能力(リベラルアーツ)』『表現力・思考力・ディベート力』『コミュニケーション能力』を高校時代に習得することが、大学入試のためだけでなく、その後の人生においても大きな意味を持つ』と、後輩に向けて熱く語られました。講演後は、予定時刻をオーバーするほど多くの質問が生徒から寄せられ、佃氏はその一つ一つに丁寧に答えられました。

今回の講演のおかげで、生徒達は将来を思い描いて今を頑張ろうという気持ちを強くしたようです。

### 下村幸男氏(高2回) サッカー殿堂入り決定



下村 幸男氏(高2回)

日本サッカー協会は8月7日、下村幸男氏他3人の日本サッカー殿堂入りを発表しました。掲額式典は9月10日に東京都文京区のサッカーミュージアムで開催されます。

下村氏は、修道高校でGKとして活躍し、高校3年時に国体で3位、実業団時代にオリンピックのメルボルン大会の日本代表として出場されました。1965年の日本サッカーリーグの発足時、東洋工業(後のマツダSC)の監督に最年少(33才)で就任し、リーグ4連覇を含む5度の優勝ならびに3度の天皇杯優勝を成し遂げられた後、藤和不動産(後のフジタ工業)監督を経て、1979年～80年にはGK出身として初の日本代表監督に就任されました。

母校修道高校においても、指導者として、1961年の秋田国体(少年の部)、第40回全国高等学校サッカー選手権大会の2冠達成に貢献されました。

殿堂入りを果たされる下村氏の益々のご活躍をお祈りいたします。



## 同窓会名簿 第36号発行

名簿委員長 大方 幸一郎(高38回)

修道学園(中・高)同窓会会員名簿は、平成22年3月に第35号を発行し5年が経過しました。年を追うごとに名簿の改訂を望む声が強くなり、これを受けて平成25年6月に第1回の名簿委員会を立ち上げ今回の名簿発行に向けて動き出しました。

今回の第36号の発刊にあたりましては、同窓生や役員の方はもとより多くの関係者の皆様にご協力をいただき、無事発行にこぎつけることができました。同窓生の住所判明率が77%を超えたことは、名簿発行の趣旨をご理解いただき、より充実した名簿を望まれる同窓生のお気持ちの表れであると名簿委員一同心より感謝いたしております。

修道は今年で創始290年を迎えます。今回の名簿発行が、修道学園(中・高)同窓会並びに学校法人修道学園のさらなる発展と会員相互のネットワーク構築の一助となることを願ってやみません。



## 新役員選任

鈴峯同窓会の修道学園同窓会連合会への加盟にともない修道学園同窓会連合会の役員の見直しを行い、副会長・監査・幹事の補充選任を行いました。

修道学園同窓会連合会新役員のみ掲載(敬称略)

- 副会長(2名から3名へ) 長尾豊子(鈴峯)
- 監査(3名から4名へ) 延堂新子(短昭44)
- 幹事(59名から79名へ)

### 〔修道学園(中・高)同窓会〕

- 横田守(高9) 佐伯正道(高25) 中本憲治(高26)
- 福原俊二(高27) 和田章宏(高29)
- 久保田貴八郎(高31) 新藤幸次郎(高32)
- 佐々木明(高33) 川崎博行(高34) 井上徹(高35)

### 〔広島修道大学同窓会〕

- 大原正己(商13) 佐々木茂喜(商19) 岡田俊二(商20)
- 田村かおる(人7) 日下美香(人8)

### 〔鈴峯同窓会〕

- 長尾豊子(短昭43) 竹中弘子(短昭43)
- 伴敬子(短昭47) 坂本清子(短昭42) 武原信子(短昭43)

## 事務局だより

### 広島土砂災害義援金のお礼

平成26年8月20日に発生しました広島土砂災害から1年が経ちました。改めて犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

災害直後に開催されました平成26年度中高同窓会におきまして、多くの同窓生の皆様方より26万円もの多額の温かい募金をいただきました。この募金と同窓会からの募金をあわせた50万円を平成26年9月10日に社会福祉法人中国新聞社会事業団を通して被害に遭われた方々に寄付させていただきました。この場を借りてご報告とお礼申し上げます。

### 写真・資料提供のお願い

修道学園(中・高)同窓会では、過去の写真・資料等を収集しております。写真・資料をお持ちの方は、是非ご提供くださいますようお願いいたします。提供いただきました資料は、会報誌や三百年学園史の資料として使わせていただきます。ご協力をお願いいたします。

### 住所変更手続きのお願い

会員の方で住所・電話番号・勤務先・メールアドレス等変更になった方は、変更手続きをお願いします。

変更手続きは、修道学園(中・高)同窓会ホームページの住所変更登録フォーム、または同窓会名簿内の添付ハガキでご連絡ください。電話・FAXでも結構です。ご協力をお願いいたします。

### 修道学園(中・高)同窓会事務局

〒730-0055 広島市中区南千田西町8番1号  
TEL (082)241-6686  
FAX (082)249-0870  
E-mail: dosokai@shudo-h.ed.jp